

観峰館 令和3年度 秋季平常展

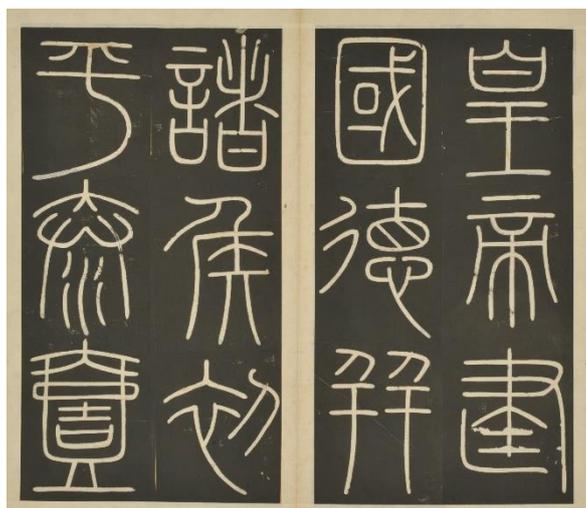
始皇帝以前

いにしえ
— 古 を伝える書画文物 —

会場：本館5階展示室

会期：9月18日（土）～11月21日（日）

展示解説パンフレット



【ごあいさつ】

本年は、「始皇帝」こと、秦王・政（せい）が中国史上はじめて全土統一をはたした紀元前 221 年から、およそ 2200 年の節目にあたります。この展覧会では、始皇帝以前時代に因んだ拓本・文物、臨書作品や、故事を描いた絵画を展示します。

「ファーストエンペラーの時代」をお楽しみください！

【展示内容と主な展示作品】

第一章 絵画作品に描かれた故事



部分図

中村不折「老子出関図」大正～昭和初期

中国・春秋時代の思想家であり、道教の祖とされる老子（生卒年不詳）は、『史記』などにその経歴が記されています。この作品は、牛を伴い関所を過ぎようとする老子が、関守の尹喜に「老子道德経」を授けた『史記』の一場面を描いています。

洋画家であり書家でもある、中村不折（1866～1943）の得意とする画題です。



部分図

葉曼叔「曾参図斗方」中華民国

膝をつく男性と、人差し指を伸ばして佇む老婆が描かれています。男性は春秋時代の曾参という人で、山へ薪を拾いに出かけていました。曾参が出かけている間に、彼を訪ねてくる者がいました。家にいた母親は慌てて、曾参が早く帰って来ることを強く願い自分の指を血が出るほど噛み、祈りました。山中にいた曾参は急に心が痛み、誰かに呼ばれているような気がして慌てて帰宅します。親子の絆を示す故事が描かれています。

第二章 文物～拓本と瓦当



部分図

李斯「泰山刻石」秦時代 始皇 28 年（前 219）刻

「泰山刻石」は秦の始皇帝が中国全土を統一した3年後、山東省中部を巡遊したときに泰山に建てた記念碑です。泰山の山頂で天を祭る封禪の儀式を行った際に作られました。その文字は李斯が書いたと伝えられます。秦時代に制定された小篆で書かれており、整然とした姿の文字は、篆書体の標準的な姿とされています。

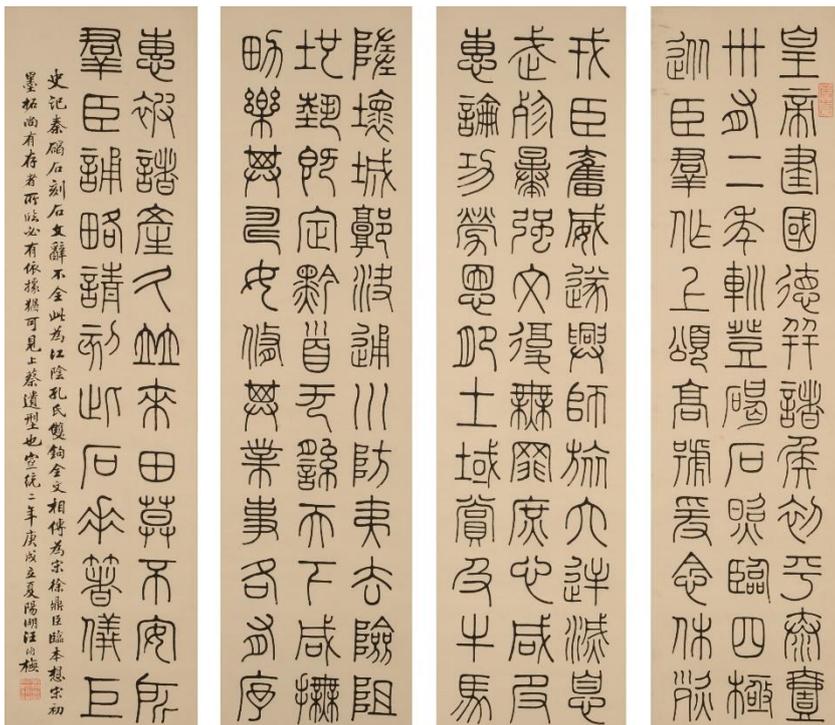
第三章 歴史を伝える書物

『資治通鑑』江戸時代後期 天保7年（1836）



『資治通鑑』は、中国・北宋の司馬光によって編纂された、全294巻の歴史書です。中国を代表する歴史書の一つとして、広く受容されていました。展示は、始皇帝の統一以前に活躍した将軍・李信が楚国を攻めようとする場面です。李信は『史記』以外の史料ではその事績をたどることができませんが、近年、漫画の主人公として脚光を浴びています。

第四章 始皇七刻石の臨書作品



汪洵「篆書臨碣石刻石四屏」

清時代末期 宣統2年（1910）

清時代の官僚であり、晩年は上海で書画を売り活躍した書画家・汪洵が「碣石刻石」を臨書した作品です。均整のとれた篆書体が整然と並んでおり、紙面には独特の緊張感が漂います。整った文字の形でありながら、墨線にはわずかにカスレや肥瘦が生じており、静けさの中に動きを感じさせる書風です。

始皇帝以前—古を伝える書画文物— 出品リスト

会期：令和3年（2021）9月18日（土）～11月21日（日）

テーマ	目録番号	作家名（生卒年）	作品名	制作／出版年
1 2 3 4 5 6 絵画作品に 描かれた故事	4b-0219	張聿光（1885～1968）	弦高犒師図	清時代末期～中華民国初期
	4b-0340	沈心海（1855～1941）	三老図	中華民国12年（1923）
	日-画-001	中村不折（1866～1943）	老子出関図	大正～昭和初期
	5a-0066-1	葉曼叔（1899-1984）	王祥図斗方	中華民国
	5a-0066-2	葉曼叔（1899-1984）	郊子図斗方	中華民国
	5a-0066-3	葉曼叔（1899-1984）	曾参図斗方	中華民国
7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 文物 ～拓本と瓦当	96-0011-6	不詳	双龍紋半瓦当	戦国時代
	96-0011-7	不詳	饗饗紋半瓦当	戦国時代
	96-0011-21	不詳	鋸葉雲紋瓦当	秦時代
	13-0228	不詳	鹿紋瓦当	秦時代
	13-0229	不詳	永受嘉福瓦当	秦時代
	96-0011-23	不詳	網心雲紋瓦当	秦時代
	96-0011-28	不詳	葵紋瓦当	秦時代
	96-0011-30	不詳	水渦紋瓦当	秦時代
	碑-マ-003	李斯（?～前208）	泰山刻石	秦時代 始皇28年（前219）刻
	碑-漢-044	不詳	武氏祠石闕画像	後漢時代末期刻
	朝拓-009	不詳	「徐市過此」拓本	不詳
	碑-追-006	李斯（?～前208）	碣石頌	秦時代 始皇32年（前215）刻
影-不明-003	徐鉉（916～991）	宋徐鼎臣臨秦碣石頌	清時代後期	
20 21 22 歴史を伝える 書物	WRE-0104	岡白駒（1692～1767）	史記鱮	江戸時代中期 宝暦6年（1756）
	WRE-0023	—	十八史略	江戸時代後期 天保10年（1839）
	WRE-0024	—	資治通鑑	江戸時代後期 天保7年（1836）
23 24 25 26 27 28 29 30 始皇七刻石の 臨書作品	4A-4008	汪洵（?～1915）	篆書臨碣石刻石四屏	清時代末期 宣統2年（1910）
	4A-4248	楊沂孫（1813～1881）	行書徐鼎臣秦碣石頌後横披	清時代後期 同治6年（1867）
	4A-2450	伊立勲（1856～1942）	篆書臨會稽刻石軸	中華民国12年（1923）
	4A-2675	丁仏言（1878～1930）	篆書臨秦權量銘軸	中華民国15年（1926）
	4A-1060	沈曾植（1850～1922）	篆書臨嶧山刻石軸	清時代末期～中華民国初期
	4A-3063-2	馮文鳳（1906～1971）	篆書臨嶧山刻石軸	中華民国24年（1935）
	拓帖-102	李斯（?～前208）	嶧山碑	秦時代 始皇28年（前219）刻
	影-西東-006	楊守敬（1839～1915）	秦蒙將軍之像碑	大正15年（1926）

令和3年(2021)9月18日 発行

編集

公益財団法人日本習字教育財団 観峰館

所在地

〒529-1421滋賀県東近江市五個荘竜田町136

TEL 0748-48-4141 FAX 0748-48-5475

<https://kampokan.com/>